

災害訓練の実施について

1 はじめに

桂沢水道企業団（以下、企業団という。）では、北海道根室沖を震源とする地震発生を想定した情報伝達及び実地訓練を行い、職員の防災意識の高揚及び防災行動力の向上を図るとともに、初動体制の確立及び円滑な災害応急対策を図るため、災害訓練を実施しました。

2 各訓練の内容

平成30年3月23日（金）午前9時00分に、北海道根室沖を震源とする地震（マグニチュード8.8、空知管内は震度4）が発生したとの想定で訓練を開始しました。

訓練開始後、水道技術管理者の指示により、導水管路点検班と場内外施設点検班は危機管理マニュアルに定めた順路に基づき点検を行い、結果や状況が無線等により、「場外施設に異常なし」「導水管路に異常なし」等の連絡を浄水場（対策本部）に伝え、情報が的確に伝達できるかを確認しました。

送水管路の点検班には、2系統ある送水管の内、1系統で漏水が発生した想定で水道技術管理者の指揮により、1系統を停止する操作を命じ、バルブ操作を行うという想定で実際にバルブの場所まで出向くなど、送水管1系統の停止手順等を確認しました。

また、関係機関との諸連絡対応の班は、修繕作業の進捗状況等を構成団体等に伝達する手順やホームページへの掲載手順について確認しました。



管路点検の様子



対策本部の様子

3 訓練参加者の感想

訓練終了後、参加した職員や関係団体に聞き取りを行いました。

【主な感想】

- 経験の浅い職員を管路点検班として、点検を命じたが、バルブ類の位置が分からず、応援を要請するシーンがあったことから、図面や管路情報を管理するタブレット端末の災害時の活用方法を検討した方が良い。
- 分散保管している紙ベースの図面も最新の状態であるか、このような機会に確認した方が良い。
- 災害時においては、企業団の人員、資機材だけでは限界があることから、運転管理業務の受託者と災害時における人員や資機材の供給について、協定を締結できないか。

4 次回の訓練に向けて

今回の訓練で、災害時における情報伝達や情報共有の難しさ、人員・情報が限られた中で優先順位を決めて対応していくことの難しさなど、様々な課題が抽出されました。

今後もこのような訓練を定期的実施し、既存の危機管理マニュアルに反映させるなど、課題や問題点の改善、職員のスキルアップなど、危機管理対策の強化に努めてまいります。